

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意識や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 茨城県立鹿島特別支援学校 】

1 実践テーマ	Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ
2 実施対象者 (学年・人数)	中学部生徒 88名, 高等部生徒 111名 保護者, 地域住民 20名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ①教科名 (保健体育, 総合的な学習の時間) ②行事名 (運動会) ③その他 (障害者スポーツ交流, オリパラ教育講演会) (2) 地域における活動 ①イベント名 (国体ゴミ0運動) ②その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ポッチャやフライングディスクなどの障害者スポーツの体験を通して、スポーツや仲間と交流することの楽しさを味わうとともに、オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高める。 地域の方や他校の方々を迎えたり、交流したりするにあたっての他者を思いやる心やボランティアの心を醸成する。
5 取組内容	<p>(1) 障害者スポーツ交流 第1回</p> <p>①日時 9月26日(木) 9:30 ~ 11:45</p> <p>②場所 鹿島特別支援学校 体育館</p> <p>③参加者 鹿島特別支援学校中学部 86名 鹿嶋市立大野中学校 2年生 29名</p> <p>④内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 和田百合子氏(フライングディスク担当, 茨城県障害者スポーツ指導者協議会副会長), 青田修一氏(ポッチャ担当, 茨城県障害者スポーツ指導者競技会理事兼県南ブロック長, 茨城県ポッチャ協会副会長)によるデモンストレーション 障害者スポーツ体験(チーム対抗戦) 感想発表



ポッチャで得点を確認している場面



フライングディスクをしている場面

(2) 運動会での障害者スポーツの実施

- ①日時 10月3日(木) 9:10 ~ 11:50
- ②場所 鹿島特別支援学校 体育館
- ③参加者 鹿島特別支援学校 中学部 86名
- ④内容 ポッチャ, フライングディスク, ゴールボール



ゴールボールを練習している場面

(3) 障害者スポーツ交流 第2回

- ①期日 10月31日(木) 9:45 ~ 11:50
- ②場所 大野中学校 体育館
- ③参加者 鹿島特別支援学校 中学部3年生 36名
鹿嶋市立大野中学校 2年生 115名

④内容

- ・ポッチャ, フライングディスクのチーム対抗戦
- ・感想発表




対抗戦前に円陣を組んでいる場面



フライングディスクをしている場面

(2) オリパラ教育講演会の実施

- ①日時 11月8日(金) 13:00 ~ 14:15
- ②場所 鹿島特別支援学校 体育館
- ③参加者 鹿島特別支援学校 中学部, 高等部生徒
保護者, 地域住民
- ④内容 講演題「グローバルマナーとおもてなしの心」
講師 筑波大学客員教授 江上いずみ氏
内容 元CAとしての経験を生かした英語を交えての「おもてなし学」について

	 <p style="text-align: center;">「おもてなしの心」スライド 講演会の様子</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>1 障害者スポーツ体験 障害者スポーツ（ボッチャとフライングディスク）を通して交流を行うことで、お互いの生徒が早く緊張感を和らげて交流をすることができた。ボッチャでもフライングディスクでもチームごとに自分たちで投げる順番を検討する場面を設定したり、ディスクを渡す役割をつくったりしたことでコミュニケーションをとる機会を増やすことができた。また、試技が成功した時には褒める言葉をかけたり、ハイタッチをしたり、失敗した時には励ましたりするなど和やかな雰囲気の中で交流を楽しむことができた。幅広い層の人が楽しむことができる障害者スポーツに、コミュニケーションをとる機会を増やすための工夫を加えたことが良い交流につながった。さらに、体育の授業や運動会でも障害者スポーツを実施することで、スポーツをさらに継続して楽しむ気持ちを高めるとともに、オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心を高めることができた。</p> <p>2 オリパラ教育講演会 あいさつの仕方、握手の仕方やノックの仕方などのグローバルマナーについて、ロールプレイを交えながら行うことができた。また、「ありがとう」という感謝の気持ちを伝える言葉の大切さを知ることができた。その後の生活の中で実践する姿が見られるようになった。</p>
<p>7 実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>○障害者スポーツを校内のみで体験させるだけでなく、他校との交流で体験させることによって、スポーツを通してより多くの人と交流することの楽しさを味わわせるようにした。</p> <p>○交流活動を行う際に「相手を思いやる心」やコミュニケーション能力」を育むことが本校の生徒にとって課題であると考え、「マナーやおもてなし」の講演を位置づけた。</p> <p>○あいさつや礼の仕方を生徒に体験させることによって、その仕方や大切さを実感させ、日常生活での実践へとつなげるようにした。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>○来年度以降、継続して障害者スポーツを実践するために、学校の教育課程の中に位置づける必要がある。事前や事後の学習を含め、教科や領域等における学習内容の取扱いについて検討する必要がある。</p> <p>○講演会を学校公開日で行ったが、地域の方や保護者の参加が少なかったので、より多くの人に参加してもらえるよう広報していく必要がある。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>○障害者スポーツを通しての交流を継続して行う。</p> <p>○鹿嶋市で行われるオリンピック サッカー競技をスタジアムに行き、直接観戦する。</p> <p>以上の取り組みを通して、障害者スポーツ、オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高める。</p>